

越前町議会・令和5年12月定例会一般質問【高田浩樹議員】

(令和5年12月6日 午後0時57分 開始)

○7番(高田浩樹君) それでは、通告書に基づいて、交通網の変化による影響と対策について質問していきます。どうぞよろしくお願いいたします。

来年の3月16日、北陸新幹線金沢敦賀間が延伸開業を予定しております。先月19日に国道417号、冠山峠道路、愛称クラウンロードが開通されました。2026年春には中部縦貫自動車道の大野油坂道路が開通、県内全線が開通予定であります。国道365号、栃ノ木峠道路改良の動きも見られております。

このように当町を取り巻く交通網、大きな意味では環境変化とも捉えることができるとは思うんですけども、これらによって観光産業はもちろんのこと、町民の方々の暮らしにも大きく影響を及ぼすものであると考えられます。

これらに関しての効果、影響についてどのようなことを見込まれるのか、想定されるのか、対策としてどのようなことを考えているのか、そういったことを今回の一般質問で議論していきたいと思っております。

最初にですけれども、繰り返しになりますが、来年3月16日、北陸新幹線が県内開業予定であります。先月19日には国道417号、冠山峠道路が開通されました。2026年春には中部縦貫自動車道が県内全線開通の予定であります。このような当町を取り巻く交通網の変化、これに関しての観光、産業の効果についての見解と対策について伺いたいと思います。よろしくお願いいたします。

○議長(佐々木一郎君) 町長。

○町長(青柳良彦君) それでは、高田議員のご質問にお答えいたします。

初めに、北陸新幹線の県内開業ですが、日本政策投資銀行の事前予測によりますと、県内への経済波及効果は年間約309億円と試算されています。ビジネス及び観光面への直接的な効果は約191億円と試算されており、本町にも観光や産業面で効果があるものと期待しているところです。

また、中部縦貫自動車道の県内全線開通及び国道417号、冠山峠道路の開通は中京方面からの物流や人流の増加により、地域の活性化が期待できます。具体的には、観光スポットや旅館のにぎわいのほか、農林水産物や越前焼の売上げの増加なども期待できます。

町ではこれまでハード面において、民宿・旅館の改修に対する支援、観光施設のリニューアルや設備の更新などを行ってきました。ソフト面においては、インバウンドやおもてなしに関する観光事業者等への研修をはじめ、商談会への参加や出向宣伝、2次交通対策など、町観光連盟と共に様々な事業に取り組んでまいりました。

今後はこの交通網の変化を機に、これらの取組を継続し、さらなる観光誘客に努めてまいります。また、商工会など、経済団体による中京方面との相互交流など、新しい取組みに期待しているところです。

以上です。

○議長(佐々木一郎君) 高田浩樹君。

○7番(高田浩樹君) 経済効果も見込め、個別具体的に準備してきたこともあるということだったと思うんですけども、正直、こういった大きな交通網、これから変化していく、もう既に変化が見えてきているところに対して、何か大きなビジョ

ンであったり、方向性、そういったものがもっと聞きたかったなというのは思いましたね。そういったことを基に施策を具現化していく、そういったことがやはり大事じゃないのかなと私は思います。

北陸新幹線の金沢敦賀間の延伸開業に伴いまして、並行在来線、敦賀から大聖寺間の経営がJR西日本から県や市町、民間によって設立された株式会社ハピライン、これに移管されることになりました。これにより大阪、京都、関西方面の特急サンダーバード、名古屋、岐阜などの中京方面の特急しらさぎ、これらは敦賀駅まで止まってしまうこととなります。

これらの特急、私自身もそうですが、町民の方々は大変なじみが深く、現在進行でたくさんの利用者がおられることと思います。ほとんどの町民の方は鯖江駅、武生駅、そういったところから乗降していることと考えられますが、北陸新幹線が県内開業になりますと、これらの関西方面、中京方面、こういった特急電車、こういった電車のアクセスが不便になるということは想定されております。

そしてまた、ちょっと話は変わるんですけども、先月19日に開通された国道417号、冠山峠道路ですけども、これにより鯖江から大垣まで大体2時間20分と言われております。越前町の場所にもよると思うんですけども、大体2時間半ほどで来られるんじゃないかと思っております。

地図を見る限りでは、距離的には大垣、岐阜市、それぞれ道は変わるんですけども、大体これくらいの時間になるのではないかと予想されます。そして、岐阜市のさらにちょっと行った先には、本町と同じホッケーが盛んな各務原市もあります。2026年春には中部縦貫自動車道が県内全線開通予定でもあります。

こういった交通網の変化、いい面もそうでない面もあるのではないかとはい思っております。実際の距離や心理的に距離が近くなれば、観光のチャンスであるとともに県外からの移住の可能性、逆を言えば人口流出の可能性もあるのではないかと考えられます。

そこで、このような当町を取り巻く交通網の変化による町民の方々の暮らしに対しての影響、また、人口流出や移住などに関し、見解と対策について伺います。

○議長（佐々木一郎君） 町長。

○町長（青柳良彦君） お答えいたします。

並行在来線の経営がハピラインに移管されることによる町民の皆さんの暮らしへの影響ですが、ハピラインを利用する場合、関西や中京方面へ移動する際には特急がなくなることにより一旦敦賀駅での乗換えが必要となり、これまで以上に時間がかかることとなります。また、新幹線を利用する際には、越前たけふ駅での乗降が想定されますが、武生駅、鯖江駅からさらに遠くなることにより、町民の負担が増えると思っております。

次に、人口流出と移住に関してですが、地方から大都市へと人口や経済活動が流出するいわゆるストロー効果が懸念されます。今般の北陸新幹線や国道417号、冠山峠道路の開通により、一定程度の利便性が向上いたしますが、それが人口流出や移住に直結するかは、現在のところ、不透明であります。

しかしながら、今後、県外からの交流人口や関係人口は間違いなく増加が見込まれるため、当町としてはこれを定住人口増加につなげるべく、現在実施している施策をより広く発信していく必要があると考えています。

以上です。

○議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 進学、就職などで県外に出た本町、福井県の方の場合のUターン

率なんですけれども、正直、あまり高くはないと、そういった状況であります。

今、町長がおっしゃられた交流人口、関係人口を増やす、これは重要だと思います。そこから移住定住を見据えて、どのように結びつけていくということ、これをどうしていくかということがかなり重要だと思うんですけれども、今回のテーマと外れますので、これを深掘りするのほどこかまた別の機会にしたいと思うんですが、新幹線の駅に関して、丹南エリアには越前たけふ駅があります。地理的に本町からは遠く、在来線との接続もない新幹線単独駅でありますし、発着数の面などから考えても、あくまで越前町の目線からすれば、利便性に疑問があるところであります。

北陸新幹線経由で東京方面に行く場合、越前町の場所にもよるんだと思うんですけれども、実質的に福井駅が駅勢圏になる、そういった可能性もあると考えられます。

また、関西方面、中京方面の話がありましたが、敦賀駅までになるということで、新幹線で越前たけふ駅から敦賀駅まで行って乗り換えていくのか、ハピラインで鯖江、武生駅から敦賀駅まで行くのか、マイカーで敦賀駅まで行ってしまうのか、もう電車そのものでのアクセス、そういった中京、関西面のアクセスが減少していくのか、そういった北陸新幹線県内開業による影響、もちろん逆もあると思うんですけれども、来ていただくほうに関してもそうなんです、町民の方々の視点、暮らしにおける利便性、影響についてこれからも、これから走り出したらまたしっかりと検証していただきたいと思います。

次ですが、令和6年度の予算編成方針では、未来に輝く越前町のさらなる躍進に向けた予算として、観光交流、新たな行政課題や町民ニーズに対応した施策の展開、こういったことについて言及されているところがありましたけれども、このような交通網の変化に対して、来年度の予算で検討していること、そういったことがありましたら伺いたいと思います。

○議長（佐々木一郎君） 町長。

○町長（青柳良彦君） お答えいたします。

来年度予算につきましては編成中ですが、2次交通対策では、今月末から丹南4市町共同で広域観光定額タクシー事業を実施することから、まず、この事業の定着を図りたいと考えております。

また、県では旅行者の利便性を高めるため、レンタカーの普及を進めています。昨年末における県内のレンタカーの登録台数は2,272台で、県は開業日までに全体で170台の増車が必要と考えており、そのうち越前たけふ駅には50台を確保したい意向で、今年度は事業者への支援を行っているところです。

これを踏まえ、当町としましては、レンタカー利用者に対する支援の拡充を現在検討しているところです。また、冠山峠道路の開通に関しては観光物産イベント等への出店など、県をまたぐ人流や物流を活性化させる新たな取り組みについて、商工会や沿線市町と広域的に進める予算を検討しているところです。

以上です。

○議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 2次交通について、あとレンタカー対策のお話がありましたけれども、実際に当町に来られるこれまでの観光における交通利用、また、これから北陸新幹線の県内開業、道路網の整備、そういった交通網の全般的な変化による新たな交通利用について、どのように分析しているのか、見解について伺いたいと思います。

○議長（佐々木一郎君） 原産業理事。

○産業理事（原 雅哉君） それでは、お答えいたします。

本町に来られる観光客の交通手段ですが、昨年度、町観光連盟が実施しました観光客へのアンケートによりますと、来町する際の交通手段はマイカーが93.3%、バイクが2.3%、JRが1.6%、レンタカー1.5%、路線バス等1.3%という結果で、本町を訪れる観光客はほとんどがマイカーを利用しております。今後、新幹線開業によりまして、交通手段に大きな変化が表れるかは今後注視してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 現在の状況としたらマイカーがほとんどだと。今後についてもどう分析しているんだと聞いたんですけども、大きな変化が表れるので注視していきたいというざっくりとした回答だったんですけども、また検証については後で聞いていきたいと思うんですが、今回の一般質問の調査のため、先日、冠山峠道路、クラウンロードを通過して揖斐川町の道の駅まで行ってきました。そこで岐阜県揖斐川町の議員、福井県池田町の議員と私とで意見交換をしてきました。

その際に、そこの道の駅におられた方にいろいろと話しかけて、そしたら岐阜県とか愛知県の方、そういった方がおられたんですけども、これからどこに行くんですかというんな話を何人かとさせていただいたんですけども、そんな中で幾つか気になるコメントがあったのでご紹介したいと思います。

これまで福井県にも行こうとは全くというか、思っていなかったけれども、道路が開通、これをきっかけに福井県に行ってみようと思ったと話されていました。また、道の駅で働いている方は、この辺りの道、バイクが多いからきっと福井もバイクが増えるんじゃないかという話もされていました。

先ほど、観光客の交通手段、93%、ほとんどがマイカーということですが、今回、対策されている2次交通にどれくらい伸び代があるのか、バイクの影響は実際どれくらいになるのか、やはりマイカーで来る方がさらに増えてくるのか、そういったことも含めて状況をしっかり把握していただきたいと、そういったことが重要だと考えますので、そういった交通網の変化、今後の検証について、また対応について、また、町民の暮らしに関わる部分、そういったことに対してどのようにサポートしていくのか、ちょっと幾つかまたがるんですけども、これについてご回答いただければと思います。

○議長（佐々木一郎君） 町長。

○町長（青柳良彦君） お答えいたします。

県では、観光客へのアンケートや宿泊予約状況、人の流れなどから得られる情報をデジタル化して、観光戦略に活用する観光DXに来年度から取り組みます。

町といたしましては、この分析結果と町観光連盟の実施するアンケートによるニーズや動向調査等の結果を踏まえ、必要となる施策を講じていきたいと考えております。

また、今般の道路交通網の変化や北陸新幹線県内開業については、新聞等により情報が発信されておりますが、町民の皆様には十分浸透していないことも考えられます。具体的には鉄道のダイヤ改正、目的による乗車場所の変更、また、乗換えが必要になることなど、また、ハピラインの駅の増設などです。

今後、県や株式会社ハピラインからのさらなる情報提供が予想されることから、時刻表の設置や情報発信について積極的に取り組んでまいりたいというふうに考えて

おります。

○議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 繰り返しになるんですけども、揖斐川町の道の駅に行ったときに岐阜県とか愛知県の方から、これから福井県に行ってみようと思ったというのは、やっぱり冠山峠道路が開通して、福井県まで気軽に一般道路で行けると。物理的にも心理的にも距離が近くなった、ハードルが下がったということが考えられます。

また、揖斐川町の議員であったり、池田町の議員と意見交換した際に、いろんな地域間の交流のアイデア、そういうのが出ました。ご存じのとおり、池田町と揖斐川町は隣なので一緒にガイドマップをつくったり、これは地域間交流というよりも地域間で連携して観光を盛り上げていくという話になるんだと思うんですけども、そういったこともしております。

今までなかったこういった交通網の変化で、これまでになかったような新しい地域間の交流、こういったものの可能性というのは、これは高まってきているなと思います。このことについて、地域間交流についてどのようなことを考えているのか、具体的なことがあればなお良いんですけども、町長に伺いたいと思います。

○議長（佐々木一郎君） 町長。

○町長（青柳良彦君） お答えいたします。

今ほど、冠山峠道路開通によるいろいろな影響とか地域間交流についてのお尋ねですが、私も先月、11月26日の日曜日に揖斐川町の道の駅へ行ってきました。そのときには25日、26日とうちの職員、商工観光課の職員がその道の駅へ出向きまして、PRを兼ねてセイコガニを販売しておりました。

本当に行ったときには職員が大きな声を張り上げて、元気よく紹介とか売り込みをされていました。その姿を見て、頼もしく感じたと同時に、これからの意欲や楽しみが湧いてきたということも事実でございますし、そこで感じたことは、岐阜県とか県外の方は、越前がにのイメージはズワイのイメージなんですね。セイコガニというと、小さいねとか言って、いまいち知名度がなかったということ、そういったことが分かっただけでもやはり収穫だったなというふうに思います。実際に経験したことで分からないことやそれに伴う課題や情報は、非常に貴重なものだとか職員と共に感じたところでございます。

これからの地域間交流につきましては、今ほど申し上げましたような小さな取り組みを足がかりにして、大垣市、揖斐川町、またそして沿線の池田町などとの連携の可能性を探っていきたいというふうに思っておりますし、既に来年1月に当町で開催されます水仙・カニフェアに、大垣市のほうから参加したいと意向を伺っておりますので、実行委員会でそれも準備を進めていただいているところです。

今後、お互いのいろんなイベントを活用しながら、相互交流が深まることは大いに期待できますので、商工会、観光連盟、そして若者グループ、多くの皆様のアイデアをいただき、そして試しながら、そして楽しみながらやっていきたいというふうに希望を持って考えております。

以上です。

○議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 今、町長、割と具体的な話も体感されたこともお話しされて、私も実際行ってみて分かることというのはたくさんあるなと思いました。

これは先ほどのあれなんですけれども、つながったところは海のない県です。ま

た、中部縦貫自動車道も飛騨とか高山とかこちらのほうにつながっていくということで、海のない県から海のある我々越前町、しかも越前がにという大きなブランドを持っている。

この417の線でいきますと、国道なのでいろいろあって、最終的に南越前町なんですけれども、ここで描かれているのは越前町の織田北の417までで、ここからはまた365で結果的に行くんですけれども、浜まで行くんですが。こういう地図で書いてあります。これが多分、417の認識としてはこういう認識なのかなと思うので、やっぱり海までつながる417、しかも我々、この役場の前が417であります。

越前町の大動脈の1つ、大きい国道の1つであるこの417、これにつながることで。また、これから中部縦貫自動車道につながっていく。これは海のない県から海のある我々越前町、しかも繰り返しになりますが、越前がに、とても大きなブランドを有している。これは好機だと思いますので、もちろん新幹線も含めまして、この交通網の変化の好機を捉えて、またしっかりとビジョンなり方向性なりを示して、それらに基づく具体的な施策を展開していく、これが大切だと思います。

たとえ当町から少し距離があっても、こういった周辺の大きな交通網の変化、これは、今度は町民の方々にとってもすごく大きな影響を及ぼします。実際にこれまでになかった道路を通ること。先ほど町長も行って見て分かったと言っていましたけれども、自分も行って見て、こんなに近いんかと思いました。

また、新たな鉄道を利用していくこと、そういったことで同じところに住んでいても私たち自身、これまでと違った地理的な認識、感覚、そういったものというのは出てくるものだと考えます。もちろん行きやすくなったというのあれば、逆に不便になったなというところもあると思うので、そういった自分らの地理的な認識とか感覚というのはやっぱり交通網に大きく影響される。それはあると思います。

こういった交通網が変化していくこと、これの現状なり、将来の認識を当町としてしっかり持つことで、町民の暮らしをよりよいものにしていくためにどうしていくのか、新しく芽生える機会をどのようにしていくのか、今回のテーマとしてはそういったことを議論させていただいたんですけれども、それらに関してさらなる積極的な取組み、これを期待いたしまして、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

(午後1時23分終了)